

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー  
2014年度事業計画

I 事業計画基本方針

本年度、当財団は、以下の基本方針を掲げ、諸事業を積極的に推進する。

1. 事業の展開

定款に定められた当財団の目的に沿って、キリスト教精神に基づき、立場の相違を越えた対話を通し、自由、平等、正義、平和に基づく社会の実現に寄与する事業を一層活発に展開する。

2. 事業の推進

1) 公益目的事業

(1) 東・西活動センター

- ① 現有のフォーラム事業及び研修・セミナー・体験交流事業を継続、発展させる。
- ② 参加者同士の対話中心の宿泊プログラムを拡充する。
- ③ アカデミー運動の目的に従って今日的な社会の課題に対する認識を深め、それにふさわしい新規プログラムの開発に取り組む。
- ④ 東・西活動センター合同プログラムを継続的に実施する。

(2) 関西セミナーハウス

- ① 当財団の事業展開の拠点として、公益目的事業でのさらなる活用をはかる。
- ② 東・西活動センターの事業目的である公益活動への貢献度を高める。

(3) 広報活動

機関誌「はなしあい」を定期的に発行し、当財団の諸活動を報告する。また、東・西活動センターおよび関西セミナーハウスの活動状況については、ホームページ等によって積極的な情報発信を継続する。

2) 収益事業

公益目的利用外の一般利用者、企業等への宿泊研修施設の貸出しを行い、その収益の一部を公益活動に資する。

3. 運営推進体制の安定化

それぞれの継続する公益事業は、明確な方向性と予算計画を持ち、運営推進にあたる。また新規プログラムについても、必要財源を確保し、活動を展開する。

4. 財政の健全化

- 1) 引き続き、財政の健全化に取り組む。
- 2) 保有資産を見直し、有効な活用策を研究する。
- 3) 運用基金の運用は、規程、細則に則り行う。

5. 賛助会員、寄附金の拡充

公益事業、広報活動等を積極的に展開して、アカデミーの理念を周知し、アカデミー運動を支えようとする賛助会員、寄附金の拡充を図る。

## II 関東活動センター2014年度事業計画

2014年度に、「日本クリスチャン・アカデミーの理念」に基づき、以下の対話を重視したプログラムを企画する。

1. 関東フォーラム今日的課題Ⅰの「自死に遭遇した人への慰めとは」は、従来タブーとされがちであった自死の問題を取り上げ、教会と社会における具体的な取り組みの可能性を探るプログラムである。
2. 関東フォーラム今日的課題Ⅱの「平和憲法を考える」は、改憲の可能性が議論される現在、改めて戦後民主主義の諸価値を検証し、改めて平和憲法の意義を学ぶ企画である。
3. 関東フォーラム宗教対話Ⅰ「古典で読む20世紀」は、今ではほとんど読まれなくなった先哲の様々な古典的著作を読み直し、21世紀の現在の時点でその意義を再確認することを目的としている。
4. 関東フォーラム宗教対話Ⅰ「牧師と共に絵本を読む」は、子どもの世界を対象に描かれた数々の絵本から、現代社会への鋭い問題提起を読み取り、それを共有しようとする試みである。
5. 聖書を読むシリーズでは、フェミニズムの立場からの聖書を読み直し、あるいは今日的視点からの聖書の読み方を探ることを目的としている。
6. 各神学校の枠を超えた神学生たちの交流を目的とした「神学生交流プログラム」については、第5回プログラム（2014年3月実施）の実績を踏まえて、さらに継続する可能性を探る。

関東フォーラム 今日的課題Ⅰ	全5回	『自死』に遭遇した人への 慰めとは 賀来周一（キリスト教カウ ンセリングセンター相談所 長）	第1回4月14日（月） 第2回5月12日（月） 第3回6月9日（月） 第4回7月14日（月） 第5回8月4日（月）
関東フォーラム 今日的課題Ⅱ	全1回	平和と憲法を考える（仮題） 講師：未定	9月（未定）
関東フォーラム 宗教対話Ⅰ	全4回	古典で読む20世紀 武田利邦（農村伝道神学校 講師）	第1回5月23日（金） 第2回7月25日（金） 第3回10月24日（金） 第4回1月23日（金）
関東フォーラム 宗教対話Ⅱ	全4回	牧師とともに絵本を読む 増田琴（巣鴨ときわ教会牧 師）他	第1回6月27日（金） 第2回9月26日（金） 第3回11月28日（金） 第4回2月27日（金）

聖書を読む会	全 10回	イエスの世界の女性たち 山口里子（日本フェミニスト神学・宣教センター共同ディレクター）	第1回4月8日（火） 第2回5月13日（火） 第3回6月10日（火） 第4回7月8日（火） 第5回8月12日（火） 第6回9月9日（火） 第7回10月14日（火） 第8回11月11日（火） 第9回12月9日（火） 第10回1月13日（火）
研究会	全5回	キリスト教入門（仮題） 柳下明子（日本聖書神学校教授）	第1回9月11日（木） 第2回10月9日（木） 第3回11月13日（木） 第4回12月11日（木） 第5回1月8日（木）
神学生交流プログラム		未定	

### Ⅲ 関西セミナーハウス活動センター事業計画

2014年度に、「日本クリスチャン・アカデミーの理念」に基づき、以下のプログラムを企画する。

1. 修学院フォーラム社会は、昨年と一昨年に続いて原発問題を取り上げる。さらに、原発問題と深い関係がある科学者の責任及び特定秘密保護法に関するプログラムを計画している。
2. 修学院フォーラム福祉は、「終末期の医療」及び「葬儀と墓」を取り上げる。
3. 修学院フォーラムいのちは、最近注目されている認知症、メディカル・コントロールとグリーフケアの問題を探るプログラムである。
4. 開発教育セミナーは、小・中・高等学校の教諭を中心に、いかにして学校の現場に第三世界の国々に対する問題意識を高めることができるかを研究する。
5. お茶のこころと宗教のこころプログラムでは、京都におけるキリシタンの歴史を取り上げる。
6. もみじまつりは、今年、茶席、琴演奏の他に、特別展示会で正教会のアイコンを紹介する。

修学院フォーラム社会	第1回	科学者の原罪と社会的責任 政池明（京都大学名誉教授、物理学）	11月1日（土）
------------	-----	-----------------------------------	----------

	第2回	特定秘密保護法 佐藤優（文筆家）	11月8日（土）
	第3回	原発をどう位置付けるか 環境経済学の観点から 植田和弘（京大経済学研究科長） 神学の観点から 西原廉太（立教大学副学長）	2015年1月11日（日）～12日（月祝）
	第4回 予備	未定	
修学院フォーラム 福祉	第1回	認知症・高齢者介護～わが国の医療・福祉のあり方を考える 中島健二（京都府立医科大学名誉教授、神経内科医）	4月19日（土）
	第2回	ほどほどに去る～終末期医療の現場から 徳永進（野の花診療所院長）	5月24日（土）
	第3回	「葬儀と墓」は誰のために、何のために～キリスト教と仏教の立場から考える 池口龍法（知恩院僧侶） 塚本潤一（頌栄短大准教授）	2015年3月7日（土）
修学院フォーラム いのち	第1回	メディカル・コントロールと新・優生思想の時代 児玉真美（作家）	7月19日（土）
	第2回	共同体におけるスピリチュアルケア 交渉中	2015年1月31日（土）予定
	第3回	グリーンケアを考える 高木慶子（上智大学グリーンケア研究所所長）	2015年2月28日（土）
開発教育セミナー	第1回	開発教育入門セミナー（協力プログラム）	6月22日（日）
	第2回	縮小社会～これからの私たちの暮らしをデザインする 松久寛（縮小社会研究会代表・元京都大学工学部教授）	7月12日（土）～13日（日）

	第3回	非暴力トレーニングを体験する ～その理念と実践 大畑豊（非暴力平和隊・日本 (NPJ) 理事)	9月13日(土) ～14日(日)
	第4回	沖縄スタディツアー～今、考える 沖縄 玉城尚美（沖縄NGOセンター）	10月11日(土) ～13日(日)
	第5回	いのちの食べ方を問う～映画上 映「ある精肉店のはなし」+ワー クショップ「食卓の牛肉から見え る世界」 交渉中	11月9日(日)
	第6回	今考えるベトナムと日本～ベト ナム戦争後と日本の原発輸出か ら 伊藤正子（京都大学大学院アジア アフリカ地域研究科准教授）	12月13日(土) ～14日(日)
研究会		お茶のこころと宗教のこころ	
	第1回	京都のキリシタン(仮) 杉野栄（日本バプテスト連盟京都 洛西教会牧司）	未定
展示、講演会		もみじまつり	11月23日(日)
		展示会 正教会のイコン	11月22日(土) ～23日(日)
		講演 東方教会の祈りの形 広岡正久（前京都産業大学理事 長）	
		音楽 野中久美子（能管奏者）	

#### IV 関西セミナーハウス 事業運営方針

関西セミナーハウスは、2013年度より公益財団法人の附属施設として、新しいスタートを切った。移行後、その趣旨に添って多くの方々に2014年度も引き続き、下記の主要な努力目標を掲げ、積極的な運営を行う。

##### 1. 公益目的事業の拡大

関西セミナーハウス主催の文化的プログラムを継続するとともに関西セミナーハウス活動センターや他の教育機関・学会・研究会、諸団体と連携し、その文化、教育、社会貢献活動に参画する。

## 2. 収益事業の展開

公益目的以外の一般利用者、企業等への宿泊ならびに研修施設の貸出を積極的に推進する。特に長年、本施設が支えられているコア利用者（団体、個人リピーター）への働きかけを強める。

## 3. 公益活動への貢献

厳しい事業環境であるが、2013年度に引き続き、公益財団法人の活動を支えるために一定額の拠出金を設定し、具体的な貢献を行う。

## 4. 健全な収支の確保

収支のバランスを整え、老朽化している施設の更新を行うとともに事業の継続性を確かなものとする。

（ 以 上 ）